

女兒幼少時代の家庭生活について

女高師附屬小學校 吉 田 弘

一、自然研究に現はれる男女の相異

小學校の理科教授を受持つてゐて、特に痛感することは理科學習上に於ける男女別の相異である。男兒は非常に自然的で又創作的である。理科教育に於ては研究的態度養成を重視し、研究題目なども自由に選擇して、研究して行くことを獎勵するが、それが男兒に於ては可なりの程度に成功し得るが、女兒に於てはそれが殆んど不可能である。兒童實驗をさせても女兒であると一々指圖を歓迎し、體操の號令でもかける様に一齊的に取扱ふと可なりの程度にきちり／＼やるが、それより一步ふみ出して自由なる研究に入るなどいふことは殆んど望むことがない。だが男兒であると研究題目

を自由に選擇して研究することを大いに喜び、時たま必要に應じて一齊教授が續く様なことでもあると如何にも物足らない様な顔をする許りでなく切りに自由にやらして欲しいといふことを催促するものである。兒童實驗を一齊的に取扱ふ様な場合にも、男兒の方は教師の期待する程度の實驗はすぐにやつてしまふが、それに従ふことを肯せずして種々工夫して種々の方面から觀察實驗を進めて行く多くの場合非常に愉快なる仕事の發展を見るものである。されば男兒であると全然自由にかして置いても困る兒童を見ないが、女兒の組であるとなつてよいかわからぬとあつちでもこつちでもうろ／＼するといふ結果になるものであ

る。されば自發的にすること、研究的にすること
を目標とする理科教授に於ても女兒にはそれでは
所期の目的が達せられざるものにて、知識傳授的
に行くがよいとか、教師中心で行くが却つて好結
果を來すのではないかとの弱音をきくものであ
る。

自習時間などにも男兒と女兒と來た時には非常
なる相異がある。因に我が小學校の自習といふの
は全校を通じて自習時間といふものを設け、諸學
科の作業を重んずるといふことになつてゐて、各
兒童は自分の意志のままに、理科をしたいたいと思ふ
ものは理科教室に行き、地理をしたいたいものは地理
教室に行くといふ制度になつてゐる。處がこの自
習時間に男兒と女兒とがやつて來たのを見ると、
男兒の方はちやんと種々のやる目的を定めてやつ
て來て、之はどうするかと先生を使ひ廻はす様に
相談にやつて來て、甚だ多忙を極むるが、女兒の

方であると先生何をしたらよいでせうといふ様な
工合だつたり、先生この次の時間に習ふ實驗を教
へて下さいとかいふ工合で、先生も甚だ困るもの
である。

そんな工合だから同じ實物や器械を見せても、
女兒であると好奇心によつて見るに過ぎず、眞に
觀察するの態度がないが、男兒であるとそんなも
のに對して非常なる興味を有し、見るにしてもい
ちつて見ねば満足しない態度があり、觀察の態度
も一般によく、非常に分析的に觀察する傾向があ
る。

二、幼兒時代の影響

以上の如き自然研究に對する男女性別の相異を
見るのであるが、之は果して天稟のものであらう
か。もしも之が天稟のものならばそれに合致する
方法を講じて自然研究を指導するが至當であるが
自分はどうもそれだけで満足することが出來ぬ。

一步考へを進めてかかる相異が、日本古來の風習からして、幼兒時代から男兒は男兒とし、女兒は女兒として相異なる取扱をして來ることに起因するのではないかと思ふものである。それは取りも直さず幼兒の還境として最も重要な關係をもつ玩具そのものである。男兒であると自動車、汽車だ何だかんだという／＼と動く玩具が多いが女兒はどうであるか、人形だとか美しい飾り物とか全く男兒のそれと性質を異にするのである。男兒のそれはいろ／＼といぢつて見たり、動かして見たり、幼兒の筋肉運動や觀察に訴へる性質のものが多いが、女兒のそれは決してそうではない。人形を抱いて愛玩するといふ感情的方面や、飾り物の美を喜ぶといふ美感の初前ともいふべき方面が多く、少しも動かして見るとか、分解的に觀察するといふ方面はないのである。

私は決して今日の如く女兒に人形や飾物を與へ

て感情陶冶に資する所あるを非難するものではない。之は人間陶冶といふ立場から非常に重要な方面であることは認める。寧ろ傳統的に女兒の特长をそこにねらつてゐるものと思ひ、その妥當なるに贅意を表し度い。併し乍ら理科教育が理想とする方面の素質を女兒に於て養ふことが、等閑に附せられてゐることは認めざるを得ない。理科教育のねらふ所が今日の女子に徹底しなければならぬことは今更言ふまでもないこと故、之が徹底をはかるがためには家庭に於ける幼兒の還境にもこの方面の考慮が加へられなければならぬことを痛感するものである。

三、女兒の還境に對する考慮

然らば女兒の幼少時代を如何にすべきであるか幼兒教育の門外漢には到底考ふるを得ないが、それに對する希望だけを述べて見よう。從來の如くあまりに截然と男兒と女兒との區別をし度くない

男兒に與ふる様な玩具は女兒に與へてはならぬといふことはないと思ふ。察ろそれと同一のものたるを要しないが之れに類する心的活動、筋肉運動を要するものを作つて之を與ふべきであると思ふ。又同一のものであつても差支はあるまいと思ふ。男兒が玩具をいぢつて喜んでゐるのを傍らで女兒が見てゐる時、物に對する男女の區別を超越した人間本來の興味から、それをいぢらんとする時、その女兒に向つて兄弟や、父母などで女の兒はそんなものをいぢるものではありません、はいお人形を上げませうといふ様な事はなかつたか。

女兒に對しては感情の陶冶さへ出來て居れば、理科教育で理想とする方面の陶冶は徹々たるものであるといふならば少しの文句も私は言はぬ。理科教育に於て見る女兒の短所に對しても少しの文句も言はぬから、現在に於て見る家庭に於ける幼兒の還境をそのままに感情陶冶の方面にのみ走る

がよい。

然し乍ら人間としての働きは、又婦人の働きとしても感情のみがその全部ではあるまい。寧ろ今日の婦人には感情が勝ちすぎはしないか、感情を制御して行く理智や判断や推理などが、微弱に過ぎはしないか。殊に一般教育としての科學的考察の態度を養ふことは男兒に於てよりも女兒に於て必要ではあるまいか。特殊の方面に進んで行く男子は別として、一般に於ては女子の方がよほど多くその方面の態度を必要とするのではあるまいか。殆んど凡べての婦人は家庭に於て、衣食住の方面に苦心しなければならぬので、科學的の考察の態度を養成して置くことは非常に必要の事である。それさへも女兒に於ては感情方面だけを重視すればよいといふのであるか。家庭生活の向上も文化生活の發展といふこともそれでは望めまい。勝れた男子があつてその方面の研究を積みそれで

指導して呉ればよいといふのか。研究せんとし
 てるものにはそれほど價値あるものが出来難
 い、發見工夫といふことは偶然の間になされる場
 合が多い。尤も如何にいい事實に遭遇してもその
 本人がそれほど注意を拂ふ人でなかつたら、何も
 出来ないが研究的態度の出来てゐる人であれば決
 して見逃さずに、よい思ひ付きをする筈である。

かうした状況になれば、事實を取扱ふ人が多いた
 けに必らずその進歩に見るべきものが現はれるで
 あらう。されば我々の教育に於てはかかる態度を
 養成して置けばよいといふことになる。之が即ち
 今日の理科教育に於て望む處の研究的態度の養成
 である。

斯く觀じ來れば、今日の女兒の幼少時代に於け
 る家庭に於ける環境は決して理想的ではないと斷
 言してはばからぬ。幼稚園の教育も幼稚園に於て
 の考慮のみでなく、家庭に於ける幼兒の生活とい

ふことも大いに考慮される事であらうから、自分
 の意見が果して妥當であるならば、その方面にも
 考慮を拂はれ度いと希望して筆を擱くことにす
 る。

東京女子高等師範學校保育實習科は本
 年度から入學試験を課せられることにな
 り、三月二十八日試験の結果二十五名の
 方が入學を許可されました。